

## 第2節 石巻エリア(石巻市・東松島市・女川町)

石巻エリアは、仙台平野に連なる肥沃な耕地と世界三大漁場の一つである三陸沖があり、農水産業から工業まで盛んな地域です。震災ではこのエリア内の浸水域が113km<sup>2</sup>と広範囲にわたり、多くの住家や建物が津波により流失・全壊したほか、石巻市では東日本大震災における死者・行方不明者の数が全国で最多となる

等、被害は甚大でした。

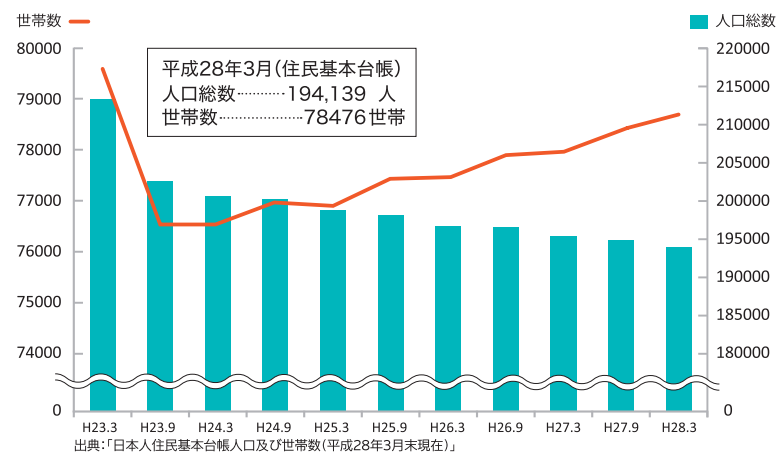
津波の被害を受けたことから、盛土高上げや土地区画整理事業が行われ、防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業とともに、新たなまちづくりが進められました。平成27年3月にJR石巻線が全線再開し、女川町中心部の「まちびらき」が行われました。JR仙石線は、線路を

のびる  
内陸に移し平成27年5月に全線が再開され、野蒜駅や東名駅も移設されました。また、仙石線的全線開通と併せて、接続線を利用した仙石東北ラインが開業しました。石巻市では津波避難タワーの整備が進み、安心・安全に暮らすための環境が整いつつあります。道路については、通行止めとなっていた県道牡鹿半島公園線が開通し、県管理道路の全ての通行止めが解除されました。

主要な産業である水産業においては、施設整備が進み、水産物地方卸売市場石巻売場の全棟完成や、女川町地方卸売市場東荷さばき場の建設等、着々と整備が進んでいます。応急復旧による早期再開から本格的な復興が進み、水揚げ金額も回復しました。

そのほか、東松島市で宮野森小学校の開校に先駆け、復興の森、うまのひづめ展望デッキがオープンしました。石巻市では石巻市立桜坂高等学校が誕生し、教育環境の復興も進みました。また、震災を教訓として生かすため、旧野蒜駅や門脇小学校の震災遺構としての保存についての議論が進みました。

### 石巻エリアの人口・世帯数の推移



### 被災の状況

#### ● 人的被害(平成28年3月31日現在)

5,289人 死者	県全体の約50%	710人 行方不明者	県全体の約57%
--------------	----------	---------------	----------

#### ● 住宅被害(平成28年3月31日現在)

28,481戸 全壊	県全体の約34%	18,955戸 半壊	県全体の約12%
---------------	----------	---------------	----------

#### ● 避難状況(県全体ピーク時)

277箇所 避難所	県全体の約21% (平成23年3月15日 午前11時)	125,831人 避難者	県全体の約39% (平成23年3月14日 午後6時)
--------------	--------------------------------	-----------------	-------------------------------

#### ● 応急仮設住宅入居者(平成28年3月31日現在)

11,719人 プレハブ住宅	県全体の約52%	6,049人 民間賃貸借上住宅	県全体の約31%
-------------------	----------	--------------------	----------



写真:石巻東部浄化センターに押し寄せる津波(石巻市)



写真:津波被害を受けた市営沼沼住宅(東松島市)



写真:女川原子力発電所内体育館に避難した人々(女川町)

### 浸水域図

#### 津波の観測値(浸水深)

地域名	(m)	調査場所
石巻市雄勝	15.5	石巻市雄勝総合支所
女川漁港	14.8	消防庁舎
石巻市鮎川	7.7	七十七銀行
石巻市明神町	6.6	旧北上川左岸石巻水産工場建屋
東松島市宮戸島	8.7	宮戸島月浜木造2階建民家

平成23年東北地方太平洋沖地震津波の概要(第3報)(一般財団法人日本気象協会)

凡例  
 浸水域  
 国土地理院

#### 被災市町の基本データ及び被災関係データ

出典:総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた 2015」

地域名	人口総数(人)	世帯数(世帯)	総面積(北方地域及び竹島を除く)(km <sup>2</sup> )	可住地面積(km <sup>2</sup> )	浸水域面積(km <sup>2</sup> )*1	推定浸水域にかかる人口(人)**2	推定浸水域にかかる世帯数(世帯)**2
石巻市	160,826	57,871	556	242	73	112,276	42,157
東松島市	42,903	14,013	102	70	37	34,014	11,251
女川町	10,051	3,968	66	10	3	8,048	3,155

\*1 国土地理院:H23年4月18日公表 \*2 総務省統計局:H23年4月25日公表

### 被災の状況

#### ① 石巻市雄勝町雄勝小学校付近



海から約300mの地に建っていた雄勝小学校は屋上まで浸水、体育館は押し流されました。大量のがれきが校舎裏まで流れ込みました。

#### ④ 石巻市南浜町付近



石巻市立病院と石巻文化センターも津波により水没しました。市立病院は、JR石巻駅前へ移転し、平成28年9月に再建する計画です。

#### ② 女川交番



女川町の中心部にあった女川交番は津波の威力により土台から破壊され、横たおしになってしまいました。

#### ⑤ 東松島市大曲浜地区



津波により船が港から押し流され、住宅地に乗り上げた大曲浜新橋付近。浜から流出した土砂やがれきが地上を埋め尽くしました。

#### ③ 女川町中心部



壊滅的な被害を受けた女川町の中心部。津波によってなぎ倒された家々のがれきが道路を寸断し、一時、陸の孤島と化しました。

#### ⑥ 東松島市野蒜地区



津波により仙石線の車両が脱線し、押し寄せた野蒜小学校付近。くの字に折れ曲がった車両が津波の威力の凄まじさを物語っています。



復興への取組み 01

環境・生活・衛生・廃棄物

平成23年4月から提供が始まった応急仮設住宅(プレハブ住宅)は、3市町計10,344戸の応急仮設住宅が整備されましたが、平成28年3月末現在、石巻市で4,007戸、東松島市で602戸、女川町で971戸の仮設住宅が未だ供与されています。恒久的な住まいの確保に向けて防災集団移転や災害公営住宅の整備が進んでおり、平成28年3月末時点で防災集団移転の整備計画数85地区全てで工事着手、災害公営住宅整備事業の整備計画戸数が6,376戸のうち5,301戸で事業着手し、随時引き渡しが行われています。こだわりや工夫が施された災害公営住宅が建てられ、平成27年に完成した石巻市の市営黄金浜第一復興住宅は、津波発生時、周辺住民も避難できる津波一時避難場所を屋上に整備しました。東松島市の東矢本駅北地区等に整備された災害公営住宅も平成26年度に入居が始まりました。女川町の災害公営住宅は、地域に合わせて集合

住宅と戸建住宅が選択されました。内山地区で平成27年度に引き渡しが行われ、そのほか平成29年度までに順次引き渡しが行われています。  
交通インフラについては、平成27年3月にJR石巻線が全線再開し、女川町中心部の「まちびらき」が行われました。高上げた中心部に公共施設と商業・観光施設を集約、高台に住宅を整備するなど、復興への足掛かりとなりました。また、平成27年5月には、線路を内陸に移し、JR仙石線が全線再開し、併せて仙石東北ラインが開業しました。駅舎が被災していた野蒜駅と東名駅は内陸へ移設されたほか、平成28年3月に新駅として石巻あゆみ野蒜が開業しました。新しくできた野蒜駅近くには交流や観光の拠点となる野蒜市民センター、奥松島観光物産交流センターがオープンし、新たな生活及び観光の拠点となっています。  
そのほか、女川町では中心市街地の形

成やエリアマネジメントを手掛けるまちづくり会社「女川みらい創造株式会社」が設立されました。テナント型商店街や周辺駐車場の管理・メンテナンスのほか、イベント運営も手掛け、行政と民間が話し合って復興まちづくりが進んでいます。  
平成27年には石巻市の石巻蛇田太陽光発電所が着工されました。東松島市でも東松島スマート防災エコタウンが完成しており、再生可能エネルギーによる自立したまちづくりの実現が進められています。  
なお、災害廃棄物については、このエリア全体で5,265千t発生しましたが、平成26年3月までに全ての処理が完了しました。



写真:黄金浜第一復興住宅(災害公営住宅)(石巻市)



写真:野蒜駅開業イベント(東松島市)



写真:シーバルビア女川(女川町)

復興への取組み 02

保健・医療・福祉

石巻市立病院は、津波により浸水したため、仮診療所での診療が行われていました。平成26年より石巻市役所に隣接するJR石巻駅前への移転新築工事が進められ、地域包括ケアシステムの拠点として平成28年度に完成予定です。また、石巻市では「仮設夜間急患センター」が開設されていましたが、石巻赤十字病院の敷地内での本格復旧に向けて、平成27年度に建設に着手しました。  
福祉施設については、石巻市で被災した湊子ども園、湊地区放課後児童クラブ、総合福祉会館みなと荘の複合施設が平成27年に開園し、地域福祉の拠点となりました。また、老朽化が進んでいた「老人福祉センター寿楽荘」が、平成28年度中に日和が丘一丁目団地復興公営住宅の中に移転予定です。この老人福祉センターは、復興住宅の居住者家族や地域住民も利用でき、新たな世代間交流の場として期待されています。更に、平成26年に石巻市児童館「石

巻市子どもセンター」がオープンし、新たな子育て拠点となるほか、荻浜、雄勝、北上の3地区で、平成29年度の完成を目指し、支所庁舎と公民館が一体となった複合施設の建設が進められています。  
東松島市では、被災施設の本格復興を進める中で、少子高齢化社会に対応していくために、統合や集約がすすめられました。平成26年4月には、大曲保育所が大曲保育所と統合されました。また、平成27年度に野蒜地区の地域交流センターの工事が始まり、この施設は、観光物産交流センターの機能も併せ持つ予定です。  
女川町では、JR女川駅の南側で、保健センター及び子育て支援センター等を建設中です。  
3市町では復旧期から継続して、社会福祉協議会等に業務委託し、応急仮設住宅入居者に対する高齢者等の見守り事業が行われています。仮設住宅における避難生活が長期化し入居者が減少する中で、入居者

の心身のケアが一層重要になるとともにコミュニティの維持が難しくなっており、継続支援が不可欠となっています。また、災害公営住宅や防災集団移転団地の整備に対応し、高齢者等の自立生活を支援するための生活支援相談員(LSA:ライフサポートアドバイザー)等の配置も行われました。被災者に対する心のケアについて、石巻市では「からころステーション」の強化を図るとともに、「みやぎ心のケアセンター石巻地域センター」と連携を強め、継続した被災者の心のケアが行われました。  
そのほか、石巻市では、医療、福祉、介護等のサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの構築を推進しています。



写真:建設中の石巻市立病院(石巻市)



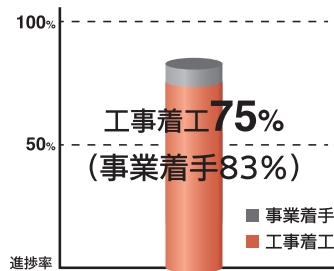
写真:児童館「石巻市子どもセンター」(石巻市)



写真:野蒜地域交流センター完成予定図(東松島市)

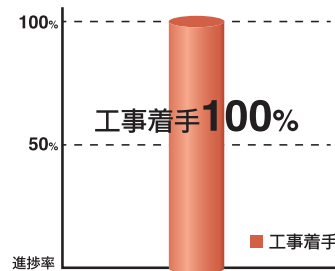
◎復興の進捗状況 (平成28年3月31日現在)

●災害公営住宅の整備状況



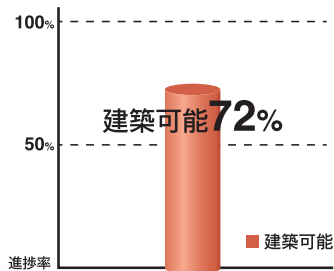
着工戸数	4,754戸
着手戸数	5,301戸
計画戸数3市町	6,376戸

●防災集団移転促進事業進捗状況(着手)



造成工事着手数	85地区
計画地区数	85地区

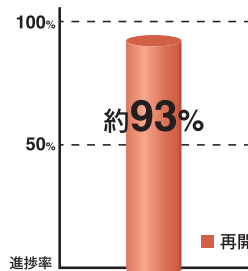
●防災集団移転促進事業進捗状況(建築可能)



住宅等建築工事可能地区数	61地区
計画地区数	85地区

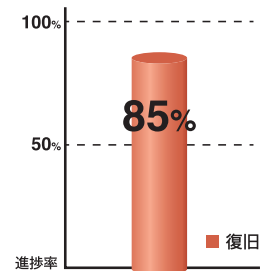
◎復興の進捗状況 (平成28年3月31日現在)

●高齢者福祉施設(入所施設)



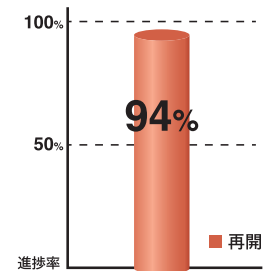
復旧施設数	30施設
被災施設数	32施設

●保育所(へき地保育所含む)



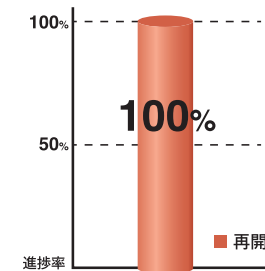
復旧済み施設数	23施設
被災施設数	27施設

●医療施設



再開施設数	16施設
被災施設数	17施設

●障害者福祉施設



再開施設数	25施設
被災施設数	25施設



復興への取組み 03

経済・商工・観光・雇用

このエリアでは、基幹産業である水産業に多くの人口が携わっていたため、水産業の復興が経済復興を後押ししました。また、石巻市では、事業用地の不足が問題となりましたが、内陸の須江地区に産業用地を整備する等により、さらなる企業誘致を推進しています。東松島市では、防災集団移転促進事業で被災者から買い取った大曲浜地区を工業用地として整備するため、起業や研究機関に無償または格安で貸し出す取り組みが進められました。集団移転跡地の利用のモデルケースとなっています。

石巻市では、平成27年より創業ビジネスグランプリが開催されました。市の地域資源を活かし、復興に資するビジネスプランを全国から募集し市内での創業を促すとともに、次世代を担う学生から地域活性化に繋がるビジネスアイデアを募り起業家意識を持った人材を発掘するための取り組みです。

女川町には、新しいまちづくりに合わせ、

平成27年3月に「フューチャーセンター Camass(カマス)」がオープンしました。カマスは会員制のコワーキングスペースと一般利用者に開放する多目的スペースを備えた施設で、新たな働き手を町外から呼び、起業支援や事業支援の拠点としての働きが期待されています。

観光については、平成27年の観光客入込数は石巻圏域3,177千人で、震災前の平成22年は4,432千人でした。平成27年3月にJR石巻線が全線再開するとともに「おながわ復興まちびらき2015春」が開催されました。新JR女川駅に「女川温泉ゆぼっぼ」が完成し、「女川町まちなか交流館」や水産業体験施設＆物産館の「あがいんステーション」も整備され、生活の拠点であるとともに観光の拠点となりました。平成27年12月にはテナント型商業施設「シーバルピア女川」が開業し、その周辺には自立再建店舗も順次開店し、商業活動の本格的な再開となりました。東松島市でも、野蒜地区や宮戸地

区で体験型ツーリズムが始められる等、地域資源を生かした観光産業や体験型ツーリズム関連産業の集積が図られています。

祭りやイベントにおいては、震災前の姿が戻りました。平成26年に開催された石巻川開き祭りから震災後中断していた「孫兵衛船競漕」が復活しました。いしのみき大漁まつりも、平成26年度から会場を魚市場に戻しての開催となりました。また、東日本大震災の復興支援及び震災の記憶を未来に残していく目的で始められたツール・ド・東北2014及び2015が開催され、石巻専修大学が発着地となりました。

雇用については、石巻公共職業安定所(石巻市・東松島市・牡鹿郡)管内の有効求人倍率は、平成28年3月末で1.94倍と1倍を超えています。しかし、食品製造業等では求職者数が大幅に減少し、担い手不足に陥りました。ガレキ処理が平成26年3月には終了したため、震災ガレキの処理従事者等の再就職に向けた支援として、県とハローワーク石巻は、離職前からの作業現場での出張相談や離職後の就職面接会等を開催しました。また、県では、就職支援のためのサポートセンターを設置し、求職者の掘り起こしから被災求職者等の様々な状況、段階に応じた就職関連支援策を提供することにより、被災求職者等の再就職を支援しました。



写真:いしのみき大漁まつりの模様(石巻市)



写真:ツール・ド・東北2014、被災地沿岸を自転車で行く(女川町)

復興への取組み 04

農業・林業・水産業

農業分野では、このエリアに広がっていた水田等の農地の多くが浸水被害を受け、復旧が必要な農地は3,494haでしたが、平成28年3月末までに3,157haの復旧が完了しました。

平成26年に、東松島市では「奥松島地域営農再開実証プロジェクト」の一環として、洲崎地区で水稲・そば・大麦等、宮戸地区でねぎ等野菜の試験ほ場を設置しました。また、石巻市では蛇田・須江地区の施設園芸団地と大川地区の花き園芸施設が営農を開始しました。被災による離農者の増加で農家数が大きく減少する中で、農地の復旧、大区画化により担い手への農地の集積が行われ、経営の法人化も進みました。

林業分野においては、石巻市には、県内の林業を支える合板工場があり、津波被災後から短期間で復旧を遂げました。平成26年・27年度には、木質ガレキを受け入れ、パーティクルボード(廃材による新しい建材)の原料チップとして活用したり、

沿岸部の被災松を受け入れ東北復興合板を生産する取り組みがなされました。生産された住宅用合板は、災害公営住宅にも使用されました。

水産業分野ではこのエリアにある、64港の漁港全てが被災し、平成28年3月末までに58港が水揚げできるまでに復旧を完了しました。このエリアは、水産関連被害額が県全体の約半分を占めるものとなりましたが、沈下地盤の高上げ工事が終了し設備の本格復旧が進みました。主なものとしては、平成27年6月に女川町地方卸売市場東荷捌場が完成し、宮ヶ崎地区では水産加工施設を集約した水産加工団地の整備が進められています。石巻市では平成27年8月に石巻市水産物地方卸売市場石巻売場が全棟完成、水産加工団地の整備事業も進められています。また、石巻市水産物地方卸売市場牡鹿売場・牡鹿製氷冷蔵庫が平成28年4月に完成予定です。施設の再建や事業の再開は進みましたが、韓国によ

る水産物禁輸の影響も出ており、取引・販路の確保・拡大が今後の課題です。風評被害に対応するため、放射能情報共有システムの運用等により、モニタリング体制を整える取り組みが行われました。

東日本大震災の津波により、アワビ等の地先漁場が甚大な被害を受けたため、稚貝の放流が実施されました。また、地盤沈下で漁場を失った北上川のベッコウシジミについて、新たな漁場への種苗放流に対する支援も行われました。そのほか、被災した後川さけ人工ふ化場の再建も検討されています。



写真:奥松島地域営農再開実証プロジェクト(東松島市)



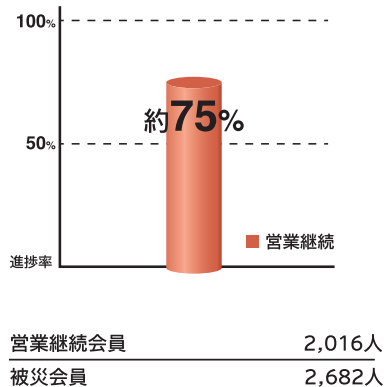
写真:女川町地方卸売市場東荷捌場(女川町)



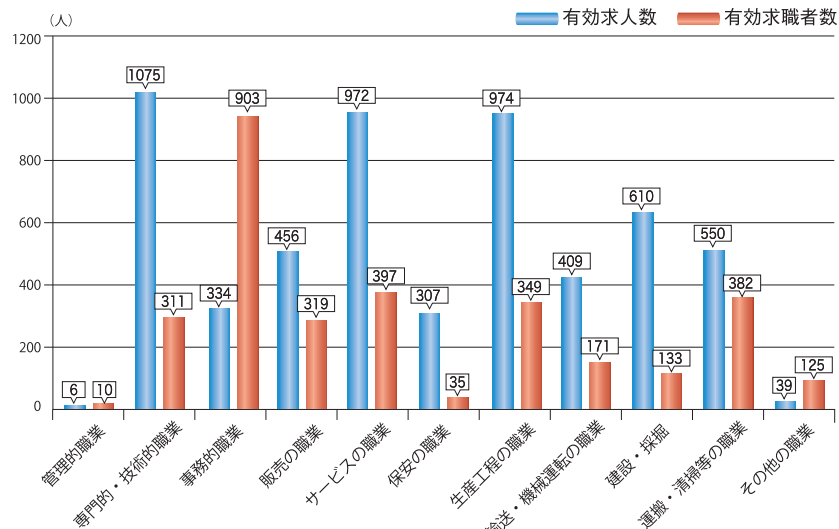
写真:アワビ・ベッコウシジミなどの放流の様子(石巻市)

◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●被災商工業者の営業状況

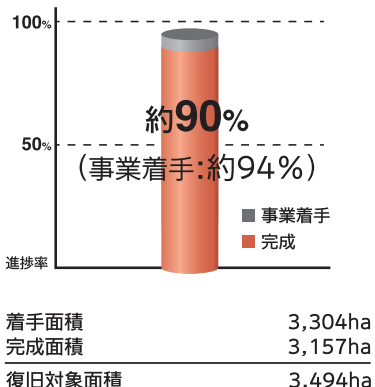


●有効求人・求職者数の動向(ハローワーク石巻管内)

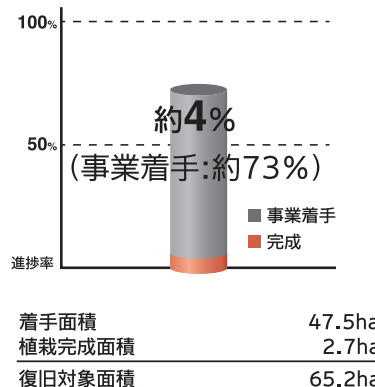


◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

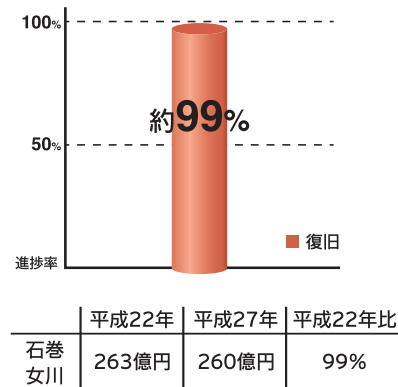
●農地(除塩含)



●海岸防災林(民有林)



●主要魚市場の水揚げ





復興への取組み 05 公共土木施設

石巻エリアにおいては、沿岸地域をはじめとした津波被害と地盤沈下が深刻でした。石巻市では、北上川下流東部流域下水道などの下水道施設の復旧はもとより、雨水排除についても、地盤沈下を踏まえた施設整備を実施し、浸水被害の防除に努めました。

高上げ工事を基盤にしたまちづくりも行われ、土地区画整理事業と防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、津波復興拠点整備事業等が併せて進められました。そのひとつとして、女川町の中心部では、土地区画整理と津波復興拠点整備事業による盛り土、高台の造成が行われ、集団移転団地や災害公営住宅とともに役場や商店街等が集約されました。平成27年に「まちびらき」が開催され、新しい暮らしが始まりました。

道路の整備に関しては、平成27年には三陸縦貫自動車道「矢本石巻道路」の石巻女川ICと国道45号と国道398号に接続す

る「県道石巻女川インター線」が開通し、女川エリアへのアクセスが向上しました。また、女川町と石巻市鮎川浜を結ぶ一般県道牡鹿半島公園線は、震災で路面の亀裂や法面の崩落等が起こり、復旧工事が行われていましたが、台風や豪雨により更なる被災を受け、工事の延長を余儀なくされていました。平成26年に工事を終え開通し、牡鹿半島の復旧・復興が進みました。この開通により、震災の影響で通行止めとなっていた県道は、全て通行可能となりました。そのほか、渡波稲井線や石巻工業港管波神線等の避難路となる道路の整備にも着工しました。

橋梁については、津波で一部流出し仮橋となっていた新北上大橋が平成28年度に開通予定です。そのほか、淀川橋の工事も進められています。

河川・海岸施設については、平成28年10月に北上運河が、平成29年3月には鳴瀬川が復旧工事を完了する見込みです。海岸防

潮堤については長浜海岸(石巻市)が完成しています。また、石巻市では防潮堤機能を持つ高盛り土道路の門脇流留線も平成26年より着工され、海側に整備する海拔7.2mの防潮堤と合わせ、多重防御による津波災害に強いまちづくりが進められました。

また、石巻市総合運動公園を災害時に市民の避難、救援活動等、防災拠点として機能する防災公園として整備するため、造成盛土工事が行われました。湊・渡波地区でも防災緑地が整備され、多重防御施設として津波の減衰機能を担う予定です。東松島市では、大曲、浜市両地区の北上運河防災緑地や野蒜地区の松ヶ島防災緑地等で、津波堆積物を改良した再生土や復興工事の土砂で盛り土がされました。



写真:おながわ復興まちびらき2015冬(女川町)



写真:石巻市被災市街地復興土地区画整理事業まちびらき(石巻市)



写真:北上川運河災害復旧工事(東松島市)

復興への取組み 06 教育

このエリアにある公立幼稚園・学校92校のうち、90校が被災しました。特に津波被害は甚大で、当初は間借りや仮設校舎での対応を余儀なくされていましたが、平成26・27年度は校舎復旧に伴う現地再開や新校舎建設に向けた動きが本格化しました。特に津波被災の多かった石巻市では、雄勝地区の雄勝、大須両小と、雄勝、大須両中がそれぞれ統合し、平成27年には雄勝地区統合小・中学校の建設に着工しました。また、渡波中学校の新築工事も着工されました。湊第二小学校と統合する湊小学校をはじめ、渡波小学校及び湊中学校も、校舎等の改修が完了、現地での再開が実現しました。ほかにも、北上小学校の移転新築が計画されています。また、震災により稼働が困難となった湊学校給食センター及び渡波学校給食センターは、施設を統合集約の上、平成26年度中に建設工事に着手しました。

東松島市では、平成25年に鳴瀬第一中



写真:石巻市東学校給食センター(石巻市)

学校と鳴瀬第二中学校が統合した鳴瀬未来中学校が、平成27年度に新校舎建築に着工しました。平成28年度には宮戸、野蒜両小学校を統合した宮野森小学校が完成予定です。地域の自然を活かした森の学校にすべく、開校に先駆けてうまのひづめ展望デッキが学校隣接地に誕生しました。また、平成25年に小野小学校と浜市小学校が統合してきた鳴瀬桜華小学校も、旧小野小学校の校舎を使用していますが、移転新築が検討されています。

また、被災した石巻市立女子商業高等学校は仮校舎での授業となっていたが、平成27年には石巻市立女子高等学校と統合し、宮城県唯一の公立女子高等学校である石巻市立桜坂高等学校が開校しました。

女川町は、東日本大震災後の少子化の影響で小中学校が1校ずつとなっていたが、新しくなったJR女川駅近くに小中一貫校として統合し、移転・整備される予定です。



写真:うまのひづめ展望デッキ(東松島市)

津波により被災した石巻市市民会館と文化センターは、博物館機能と文化ホール機能を併せ持った複合文化施設として開成地区の産業団地「石巻トゥモロビジネスタウン」に再建するため、平成28年に基本計画が策定する予定です。

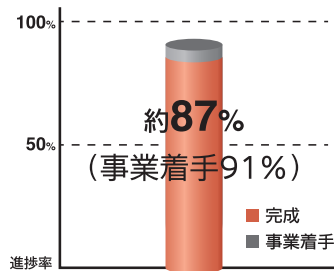
文化財等に関しては、平成27年に旧石巻ハリストス正教会教会堂の解体に着手しました。倒壊のおそれがあるため、一時的に解体して現地に再び復元される予定となっています。また、雄勝法印神楽は神楽の保存・継承の拠点となる葉山神社の高台への移転工事が完成し、遷座祭、御社殿竣工奉祝祭が執り行われました。そのほか、石巻市の旧観慶丸商店は、石巻市指定有形文化財に指定され、28年度末には文化施設として開設が予定されています。



写真:女川小中一貫校イメージパース(女川町)

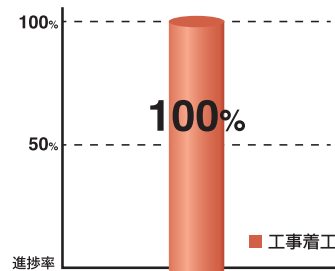
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●道路・橋梁(復旧工事)



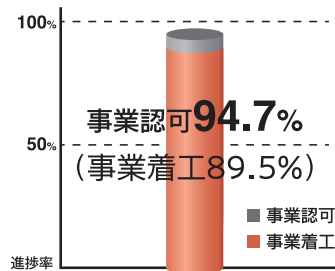
工事着手箇所数	868箇所
工事完成箇所数	835箇所
被災箇所数	953箇所

●津波復興拠点整備事業



工事着工地区数	4地区
事業認可地区数	4地区

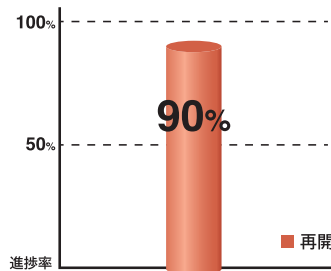
●被災市街地復興土地区画整理事業



工事着工地区数	17地区
事業認可地区数	18地区
計画地区数	19地区

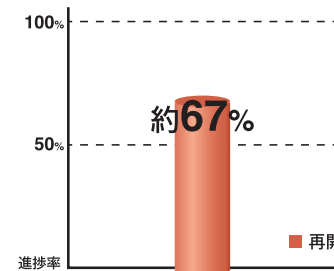
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●県立学校施設(復旧工事)



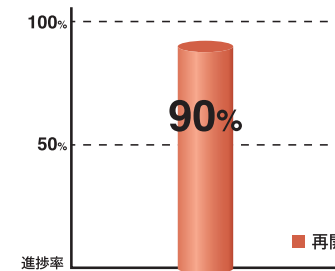
再開施設数	9施設
被災施設数	10施設

●県立社会教育・体育施設



再開施設数	2施設
被災施設数	3施設

●市町村立学校施設



再開施設数	81施設
被災施設数	90施設



女川町では本庁舎が津波により全壊しましたが、平成27年度に新築工事に着手しました。生涯学習センター、保健・子育て支援センターなどを合築し、JR女川駅南側の高台に防災機能を備えた複合施設として、建設予定です。石巻市の県石巻合同庁舎も浸水しましたが、内陸部に移転再建が決まり、平成30年完成に向け工事が着工予定です。同じく被災した東松島市の野蒜出張所は、野蒜北部丘陵地区に移転整備、新野蒜市民センターとして、平成27年にJR仙石線全線運転再開に伴い再建されました。観光機能、出張所等を併設した新たな施設となりました。

地域防災拠点としての機能を構築するため、平成27年5月には石巻市向陽町五丁目石巻消防署西分署が完成し、同年11月には女川消防署牡鹿出張所が高台へ移転新築され、平成28年9月には新渡波西地

区土地区画整理地内に石巻東消防署が開庁予定です。

東日本大震災における死者・行方不明者が全国の市町村で最大となった石巻市では、震災で高台等の安全な場所に避難できずに逃げ遅れた住民が数多くいることから、津波の際に一時避難場所となる津波避難タワーの設置が進められ、平成28年3月までに大宮町津波避難タワーをはじめ5カ所の津波避難タワーが設置されました。居室部と屋上におよそ200人が避難することができ、飲料水・食糧の備蓄があるほか、太陽光発電による電力確保も可能です。併せて、津波避難ビルの指定が進められています。

更に石巻市では、災害時にも灯りと情報が途切れない安全・安心なまちづくりを推進するとともに、学校、支所等の公共施設への太陽光発電システム・蓄電システム・

エネルギー管理システムの導入が進められました。

石巻市の津波復興拠点整備事業で進められている防災センターや、ささえあいセンター、市庁舎を結ぶ歩行者デッキは、平成31年度に完成の予定です。

そのほか、石巻市では避難所や避難場所、津波や洪水による浸水が予想される区域等の情報を網羅したハザードマップを作成しているほか、東松島市でも防災マップが作成されました。

平成27年4月、東北電力女川原子力発電所から概ね30km圏を含む宮城県内5市町と東北電力が県の立会いのもと、安全協定を締結しました。

震災を教訓として生かすため、旧野蒜駅や門脇小学校の震災遺構としての保存についての議論も進みました。また、旧女川交番を保存する方針も決まりました。



写真:女川町本庁舎イメージパース(女川町)



写真:津波避難タワー(石巻市)

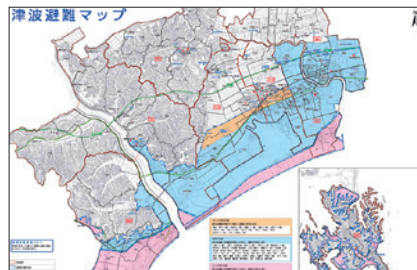


写真:防災マップ(東松島市)

## ●石巻エリアの震災遺構



### 1 旧女川交番(震災遺構)



津波により横倒しになった女川交番。希少な事例ということもあり、自然災害の恐ろしさを後世へ視覚的に伝えていくため、遺構として保存されることになりました。

**DATA**

所在地: 女川町女川浜310-1  
問合せ先: 0225-54-3131(女川町復興推進課復興調整係)

### 2 東松島市震災復興伝承館/旧野蒜駅プラットフォーム(震災遺構)



津波の生々しい爪痕を残すJR仙石線旧野蒜駅プラットフォームを震災遺構として保存。駅舎は震災復興伝承館として整備され、震災時の様子や復興の歩み、全国からの支援の記録などを展示しています。

**DATA**

所在地: 東松島市野蒜字北余景56-36  
問合せ先: 0225-86-2985

## ■復旧・復興状況(定点観測)

### 石巻市雄勝地区



### 石巻市牡鹿地区



### 石巻市中瀬(日和山からの眺め)



### 女川町女川浜



### 東松島市野蒜地区



### 東松島市小野地区

